

年間活動計画を策定

～重点調査項目を決定～

総務厚生委員会

6月28日に総務厚生委員会を開催し、「平成30年度の主要事業の実績状況」、「令和元年度の主要事業の概要及び課題等」について、総務部・民生部から説明を受けました。

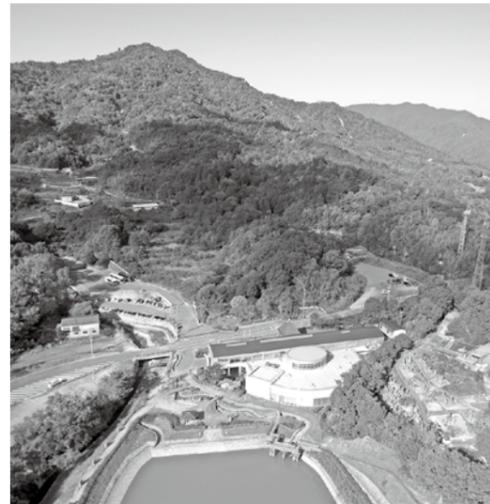
「次期総合計画の策定」、「熊野ブランドを高める連携施策」、「生活交通路線の運行確保」、「防災行政無線のデジタル化」、「(仮称) 東部地域防災センターの整備」、「プレミアム付商品券事業」等について質疑を行いました。

また、7月10日には、以下のとおり、今年度の活動計画を策定し、重点調査項目を決定しました。今後は、この活動計画に沿って重点調査項目を中心に調査・研究を重ね、最終的に町側へ政策提言を行うことを目標として委員会を運営していきます。

○重点調査項目

(1) 熊野町観光交流拠点整備構想計画について

観光交流拠点整備については、町の重要な観光拠点づくり整備であることから、色々な可能性を模索しながら調査・研究を重ね、委員会としての意見のとりまとめを行います。



▲ 拠点として整備される筆の里工房周辺

(2) 防災について

新たなハザードマップの作成や地域防災計画、防災行政無線デジタル化などの調査・研究を行います。そして、「(仮称) 東部地域防災センター」がより良い施設になるように調査・研究を行います。

(3) 健康づくり・介護予防について

高齢社会においては、高齢者ができる限り健康を保持し、介護が必要となる状態にならないよう、健康づくりや介護予防に自ら取り組めるような支援が重要であることから、高齢者本人の心身機能の向上を図るための「健康づくり・介護予防事業」の充実について調査・研究を行います。

広島県町議会議員研修

<広島県町議会議長会 講演>
国土強靱化と防災まちづくり
～想定外の災害に備えるために～
2019. 5. 27
中林 一樹
(なかばやし いつき)
ナショナルレジリエンス懇談会 委員
首都大学東京/東京都立大学 名誉教授
明治大学 研究・知財戦略機構 研究推進員



5月27日、議員の能力向上を目的として、広島県町議会議長会の主催で「広島県町議会議員研修会」が開催され、地方自治のゆくえや、防災まちづくりについて、それぞれ講演をいただきました。

○「地域のみらい、地方自治のゆくえ」 講師：ジャーナリスト 青山 彰久 氏



青山 彰久 氏

地域の活性化は経済の活性化、数字だけでは把握できない。住み心地のよい地域をつくる視点として

- ① 人とのつながりを大切にする
- ② 必要な公共サービスの政策立案と供給を住民参加で充実させる
- ③ 子どもの教育を大切に、住民の文化活動を深めていく

※地方自治を担う自治体議会、自治体議員のこれからのあり方を学んだ。

○「国土強靱化と防災まちづくり」～想定外の災害に備えるためには～

講師：首都大学東京・東京都立大学名誉教授 中林 一樹 氏

国土強靱化計画の発想とは

「想定外」を「想定内」にする事前防災である。

目標は

- ① 被害を出さない
- ② 被災を緩和し機能を継続する
- ③ どのような被害からも復興する

※想定外を想像する力、想定外対策を想像する力を育て、防災まちづくりを進めて行くことが不可欠であることを学んだ。



中林 一樹 氏